



題字 / 弘法大師



高野山真言宗
備福山正智院 駕龍寺

住所 〒710-0042
岡山県倉敷市二日市600

電話 086-421-5631

発行人 富山義賢

ホームページ <http://www.karyuji.jp/>

頌 春



平成27年4月2日～5月26日奉修

壇上伽藍に172年ぶりの中門再建
秘仏の金堂本尊御開帳に60万人が法悦

高野山開創 1200年記念大法会

平成27年4月2日開白



洒水する中西座主



「不滅の聖燈」と「祈念三鈷杵」を奉持して進む結縁行脚隊



開白当日の賑わい



横綱 白鷗関

横綱 日馬富士関



開白前の五所誦経で御法楽を捧げる(中門前)



金堂本尊「薬師如来(阿閼如来)像」



金剛峯寺持仏本尊「弘法大師座像」



燈籠堂での開白法会を終え還列する久利法印(中央)



中門落慶大曼荼羅供の様子を見守る多くの参拝者ら

大和未生
流による
献花



奥之院結願導師の東山権検校



中門から金堂に進む職衆ら

5.20~5.21



燈籠堂からの萬燈会還列

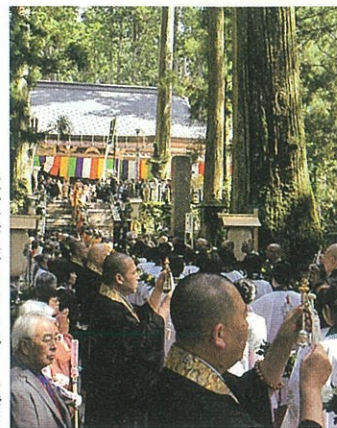


東大寺による慶讃法会

両殿下の到着を待つ
参拝者や地元小学生



詠歌奉詠の中を行く進列



高野山開創1200年記念大法会 平成27年5月21日結願 秋篠宮同妃両殿下の臨席を仰ぎ庭儀大曼荼羅供で無魔成満



両殿下を案内する添田執行長



中門前での庭儀を営む中西座主及び職衆



金堂本尊厨子の扉が静かに閉じられ
4月2日に開白した50日に亘る開
創大法会は無魔結願した



金堂結願法会に出仕・参列した僧侶ら



奥之院結願法会で献花する華道高野山

年頭にあたり

あけましておめでとうございます。

平成二十八年の輝かしい新年を檀信徒はじめ有縁の皆様方と迎えられますことを大変に嬉しく存じます。

天皇陛下 皇后陛下におかせられましたは、常に国民を思し召されて頂いていることは国民等しく感激する処であり、聖寿の万歳と皇室の弥栄、我が国の悠久なる発展を御本尊並びに高祖弘法大師御宝前にお祈り申し上げます。

さて、昨年は四月二日より五月二十一日までの五十日間にわたり高野山開創千二百年記念大法会が祖山高野山にて盛大に厳修されました。当山からも五月十一日から十二日までの日程で記念団参を実施し約五十名の善男善女にご参加を頂き、有縁の皆様とともに、五十年に一度の遭い難き勝縁に恵まれた幸運に感激も一人でございます。

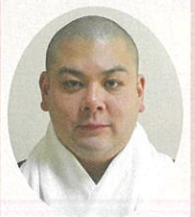
しかし、開創法会の盛り上がり之余韻に浮かれてばかりはいられません。高野山からは開創法会終了後、急速に参詣者が減ることへの不安の声が聞こえてきています。若い世代の宗教離れや儀礼文化への無関心・葬送儀礼の根柢のない簡素化。地方都市では少子化と大都市部への人口集中が進み、駕龍寺も含めて高野山真言宗末寺の力は確実に弱まっていくことは目に見えて明らかです。

この社会的流動の中で家族的紐帯、共同体が崩壊し、信仰、来世観の継続が途絶え、あの世の観念が揺らぎ、葬儀や法事の軽視が顕在化しております。

一世代二世代前の檀信徒の方は、四十年前の本堂の移転新築を契機として菩提寺を護ることに全精力を傾けてくださいました。しかしこれからの時代は、その菩提寺の護持という基礎的な観念に加えて、駕龍寺を発展させていくというもう一つの要素をプラスしていかなければ、福山寺開創以来千三百年に及ぶ駕龍寺の歴史は、時代の流れに飲み込まれ、近い将来途絶えてしまうでしょう。住職をはじめとする僧分や、寺族がただひたすら葬儀と法事のみに従事し、境内の維持に努

備福山 正智院 駕龍寺 住職

少僧正 富山 義賢



めていれば、寺は続いていくなどという考え方は遙か遠い昔に崩壊しているといわざるを得ません。

幸い、現在の総代・地区世話役の方々の中には、すでに行事の運営や寺の幅広い活動に理解とご協力をくださり、それに加えて昨年の高野山団参を縁として若い世代の方々が駕龍寺に親しんでくださる空気が芽吹き始めているように感じます。住職としましても、大変有難く心強い限りです。

本年もこのような寺と檀信徒のより良い絆をさらに堅固なものにし、足下をみつめ、力を合わせて旧弊を打ち破り、既に進行している地方寺院の危機に向き合い、伝統の上にも世代を超えた多くの方々に親しまれる駕龍寺が幾久しく興隆するよう、精進を続けたいと存じます。寒い日々が続きますが、皆様方にはご自愛頂きまして、駕龍寺の御本尊ならびにお大師様の御加護をいただかれつつ、この一年を健やかに過ごされますよう御祈念申し上げます。年頭のご挨拶と致します。

南無聖観世音菩薩

南無大師遍照金剛

南無當山鎮守

南無大明神

合掌

謹賀新年

高野山真言宗 駕龍寺

住 職 富山 義賢

責任役員

総

代眞鍋兄一

〃

〃

〃 那須昭文

〃

〃

〃 小原惣一郎

代

〃

〃 藤原金一

〃

〃

〃 藤原公男

藤木萬平

陶浪保夫

大熊公夫

岡本通

中村晃大

高木久志

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

合掌



駕龍寺 高野山開創1200年記念大法会

昨年5月11日より1泊2日の行程で、高野山開創千二百年記念大法会を参拝すべく、総勢約50名で高野山をはじめ、立里荒神社（奈良県吉野郡）・檀原神宮への参拝旅行を実施しました。



奥之院参道で祈りを捧げる



住職の子息たちも稚児として参加した



森厳な雰囲気、句作に励む人も



檀原神宮正式参拝



二男の眞迪は、初めての高野山



金剛峯寺前の大塔婆



神妙な面持ちで正式参拝に臨む参加者



参加者を代表して玉串奉奠

備福山小史 平成二十七年下半年

盂蘭盆大施餓鬼会

八月十七日、午前十時より駕龍寺本堂にて毎年恒例の盂蘭盆大施餓鬼会が厳修されました。

法会では初盆を迎えられた精霊のご遺族を中心に、多数の檀信徒の皆様が参列され、義賢山主導師のもと羽島法輪寺住職、田中良全師。福山市正光寺住職、野田泰洋師。大阪府摂津市金剛院、松政暁道師(塔婆供養師)ら法縁寺院各師の読経の響く中、参列者は焼香し、御法楽をささげて各家先祖代々ならびに有縁無縁一切精霊の冥福を祈りました。

法会に引き続き住職の法話があり、その後参列者は内陣に設けられている精霊檀と本堂入口の施餓鬼棚に施食の供養を捧げて、お盆の行事を締めくくりました。

法会後はお齋として本堂前の特設テント内で、そうめんと麦茶の接待が行われ、総代と檀徒婦人有志の方々の方々の奉仕により、盛大裡に終了しました。

なお、八月一日より祀られていた檀信徒各家の精霊は同日夕刻、住職によって密厳浄土へ奉送されました。



高野山真言宗特別伝道大会に参加

十一月五日、倉敷市民会館で行われた高野山真言宗特別伝道大会へ住職以下、五十名を超える檀信徒が参加しました。

当日は午前十一時四十分、エヴァホール倉敷を大型バス一台に乗りし倉敷市民会館へ出発。会場玄関前で現地直行の参加者と合流、高野山開創記念で全国を行脚した特大の三鈷杵を撫でて入場。

午後一時より支所下寺院住職の出仕で法要を勤修。引き続き法要の導師を勤められた高野山真言宗宗務総長・高野山蓮華定院住職 添田隆昭師による受戒・法話が行われました。休憩の後、新潟県燕市真言宗豊山派本覚院住職 澁谷隆阿師による節談説教『弘法大師一代記』を拝聴しました。ことばに節(抑揚)をつけ、洗練された美声とゼスチャーをもって演技的表現をとりながら、聴衆の感覚に訴える詩的・劇的な情念の説教である節談説教に御子息の快阿師の太鼓の演奏が加わり、聴衆も初めての経験で大変好評でした。

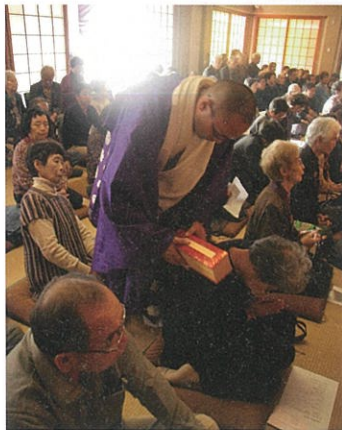


酒樽観音大祭 大般若経転読法会

十一月十五日午前十時より、本堂において恒例行事の酒樽観音大祭
大般若経転読法会が厳修されました。

当日は午前九時から境内中門脇の酒樽観音像前で住職を導師に、総
代が参列し御法楽を捧げ、十時からは大般若法会の本尊として正面に
「般若十六善神」はんやくじゅうろくぜんじん「四社明神」ししゃみやうじん「弘法大師」の三幅の絵像が掲げられ、富
山義賢山主導師のもと格院結衆をはじめ法縁寺院九口を職衆に、導師

の作法に続いて六百巻の
経典を次々に転読しまし
た。転読の間、参列者に
は大般若経理趣分りしゆぶんという



特別な経典でのお加持が行われ、一人一人が般若の梵風を受けて、一
年の感謝と来る年の息災を祈りました。
法会後には広島県福山市を中心に活躍されている原田嘉子さんの和
太鼓の勇壮な演奏を聴き、帰りにはこの日だけに授与される大般若の
祈禱札と加持された御神酒や赤飯などが配られました。好天にも恵ま
れ、老若男女約百五十名の参詣者が晩秋の一日を心豊かに過ごしまし
た。

今年の日程は十一月二十日 日曜日です。
お誘いあわせ、おそろいでお詣り下さい。

年末年始のご案内

新年の始まりを 駕龍寺で迎える

過ぎ行く一年を振り返り、来たるべき新年が素晴らしい年でありますように、あなたらしい一年の出発を。皆様のご参詣、心よりお待ちしております。

十二月十七日 午前十時

本尊ご縁日 終い観音

(南無ぜんざいお接待)

十二月二十二日 奉仕の日 (年内最後の清掃奉仕)

十二月三十一日 午後十一時四十五分 除夜の鐘

引き続き、元旦 午前零時 修正会

元朝特別加持

除夜の鐘が境内に響き渡る中、午前零時より本堂におきまして「修正会」をお勤め致します。特別加持には、毎年多くのご参詣者をお迎えして、皆さまの心願成就をお祈りしています。

新しい年を迎え、一年を振り返り思い新たにお参り下さいますよう、皆様のご



参詣心よりお待ちしております。

※新年の本堂内へのお参りは大晦日より一月三日の午後四時半まで。

授与品

吉祥宝来 先着100名

干支置物 先着100名

御供物 先着150名

本堂内にて御屠蘇拝戴・境内テントにて、御神酒・甘酒の接待 (元日午前一時頃まで)

一月十七日 午前十時

本尊ご縁日 初観音

お焚きあげ浄焚式

駕龍寺にお納め頂いた、古い御守・御札・お位牌などをご供養し、境内にてお焚き上げ致します。

終了後、御供え餅のぜんざい接待

駕龍寺初詣Q&A

駕龍寺喪中の初詣についておしえてください

先月、身内に不幸がありました。毎年、駕龍寺に初詣していますが、喪に服している間は、初詣に行つてはいけないと親戚の人から言われました。来年の初詣は控えたほうがよいのでしょうか。

お答えします

人が亡くなったとき、近親者が一定の期間、喪に服して、死を悼いたみ、慎つしむことを「忌中」や「喪中」といいます。

現在、とらえられている概念は、神道や仏教の考え方が神仏習合によって一体となって世間に浸透したものが一般的ですが、元来そのとらえ方はまったく違ったものです。

お願い

「参与会」にお入りください

お大師さまは今もなお高野山奥之院で永遠の御入定に入っております。その願いはすべての宗派や身分・職業・果ては国境をも越えて生き続けています。弘法大師を尊び敬愛し、信仰する皆様と共に高野山真言宗の更なる発展に、何卒お力添えをたまわりたく、高野山真言宗参与会にご入会下さいませ。皆様方がお大師さまの御加護を受けられ、お幸せでありますように。

高野山真言宗参与会事務局

参与会とは、正式には高野山真言宗参与会といい、総本山金剛峯寺座主・高野山真言宗管長さまを総裁と仰ぎ、弘法大師(空海)のみ教えを守り弘め、お大師さまの衆生救済のご誓願におこたえすることを目的とする信仰団体です。

●お大師さまと共に広げることろの輪、現代の高野聖としてお大師さまのみ教えを広げていくために活動を行つていきます。会員になれますと、年二回の研修会や、高野山教報の購読、高野山へお参りの折りは各所内拝料無料、参拝記念としてお線香を贈呈致します。
●研修会 参与会では、年一回研修を行っております。内容は、受戒、阿字観や法話聴講、

観音さまに故人の冥福と自身の御加護を祈る

「初詣に行つてはいけない」という親戚の方の言葉も、そうしたものに由来しているのでしょうか。

しかし、駕龍寺の御本尊聖観世音菩薩は、あらゆる悩みや苦しみを、その名を称えるだけで無条件で迅速に救つてくださいます。すなわち、観音さまにおまいりすることで、身も心も清浄になるのです。

また、観音さまが亡き人を百日目に御守護、御導きくださるといいます。むしろ、喪に服している時こそ、亡き人の追善供養のため、観音さまにおまいりください。

駕龍寺の初詣は、観音さまに年頭の誓いをたて、一年の御加護と幸せを祈願するという大切な年中行事です。

亡き人のご冥福を祈り、悲しみを乗り越えて気持ち新たに新年を迎えるためにも、ご遺族一同で観音さまにおまいりされますことをおすすめいたします。

お知らせ

十二月二十九日から一月七日までは年末年始(松の内)につき、三が日以降の通夜・葬儀を除く法要等の追善供養はお休みさせていただきます。何卒御諒承ください。

団参のお誘い

真言宗十八本山巡礼の旅

真言宗をお開きになつた弘法大師・空海。その行跡は偉大なものがあります。弘法大師ご誕生の地・善通寺から、その教えを広めるために基盤の地とされた京都・奈良などの寺々、そしてご入定の地・高野山まで、真言

宗には弘法大師にご縁ある総本山、大本山が十八ヶ寺あります。弘法大師の足跡をたどり、訪ねられてはいかがでしょうか。

日程 (第一回) 平成二十八年三月頃
行程 日帰り度五回程度を予定
(うち、高野山を含む二回は一泊二日の予定)

詳細は決まり次第、皆様にご案内申し上げます。

奉納御礼

蓮一束(盂蘭盆会に際し)

藤原喜久男殿

新穀献納

平松悟殿 (二日市)

藤原計一郎殿 (有城)

藤原通博殿 (粒浦)

藤原暉智恵殿 (加須山)



御供えいただきました貴重な新米は、日々の御仏飯や各種行事の御供物、お接待の料として大切に使用させていただきます。

ご奉仕御礼

毎月境内清掃奉仕の皆様

境内雑木伐採ならびに除草作業

岩崎輝彦様ご夫妻

小原惣一郎殿

勤行、下座行(掃除)御詠歌などです。開催については、毎月二回送られる「高野山教報」でのご案内になります。会員の皆さまからは、大変好評を得ている研修です。

●物故者慰霊碑は、篤いご浄財により建立され、平成十四年十一月十日奥の院において慰霊碑開眼法会が執り行われました。参与会員は、枢義・参与物故者慰霊碑におまつりし永く供養を捧げます。

●会員になると、高野山真言宗管長(参与会総裁)より委嘱状をお届けし、参与袈裟と参与バッジを授与致します。また、参与袈裟をつけて高野山にご登山くだされば、諸堂、霊宝館の内拝が無料となり、金剛峯寺に参拝されると、記念品としてお線香を贈呈いたします。月二回発行の「高野山教報」をお届けし、高野山真言宗が発行するパンフレットなど印刷物をその都度お届けします。

●年会費 一万円

この年会費は、お大師さまのみ教えを一人でも多くの人に知っていただくための広報活動に役立てられています。

お問い合わせ、パンフレットご希望の方は駕龍寺まで

参与会にご入会をお願いします。

【参与会新会員】

妹尾政則(加須山)

畑野瑞枝(帯高)

狩山澄子(加須山)

のぼり幡奉献

高木 久志殿 (二日市)
高木 逸文殿 (二日市)



駕龍寺境内内へのぼり幡を半年間掲揚し、所願成就を祈念申し上げます。なお掲揚に先立ち朝の勤行にてお名前の奉読を行います。

● 南無観世音菩薩 (願意記入)

● 南無大師遍照金剛 (芳名のみ)

各三千円以上

お申し込みは随時駕龍寺まで。

栄誉を讃えて

昨年、左記の方々に本山より褒賞状が授与されました

● 地区世話役退任による褒賞

眞鍋 兄一殿 (高須賀)

藤原 利夫殿 (茶屋町)

永原 安男殿 (早 島)

藤原 康博殿 (有 城)

● 永年境内美観維持作業従事による褒賞

藤原 教男殿 (粒江・藤原農園)

平成二十七年十月二十一日逝去

永きに亘るご尽力に心より感謝申し上げます。



日本赤十字社 『銀色有功章』受章

このたび、駕龍寺が赤十字事業の推進に多大な貢献をしたことが認められ、昨年八月六日、日本赤十字社岡山支部有功章等伝達式において日本赤十字社より銀色有功章を戴きました。
左の写真はその楯です。



日本赤十字社より戴いた銀色有功章

住職就任以来、真言宗の寺院として仏教儀式を以って我が国と世界と人との安寧を祈るのことは勿論のこと、檀信徒皆様のお力添えをいただきながら、社会的奉仕も微力ながら行つてまいりました。今後もこのような活動を通して、自坊のみならず広く社会に貢献の出来る寺院を目指していきたいと考えております。

新刊紹介

駕龍寺檀徒の長瀬直久氏(二日市)の『写真で学ぶ倉敷の歴史』(入門編)が、このほど刊行された。自身が撮影した駕龍寺を含む倉敷地域の歴史にゆかりのある場所の写真を豊富に掲載し、倉敷に生まれ育った地元住民としての見聞を交え、郷土の歴史と現在を紹介する。分かりやすく目にも楽しめる広く一般向けの内容となっている。

著者は二十年程前より趣味として故郷の自然や風景を題材として撮影を始め、既刊の作品集に『ふるさと散歩く倉敷・都窪の巻』(日本写真企画)・『花と緑海だった倉敷』(同社刊)がある。

定価二千八百円(税別)、株式会社日本写真企画刊。



直さんの花と緑の写真館 倉敷の歴史 入門編 長瀬直久
写真で学ぶ

駕龍寺 俳壇

羊我選

茶屋町 三浦敏子

高野山にて

○眼下には褥と紛う若楓

○宿坊に見る石南花の其処彼処

○俳人も歌人もおわす夏の寺

檀原神宮をまわりて

○細れ石正殿までを夏の宮

○かしわ手のひとつに揃ふ夏の宮

○巫女の注ぐお神酒ふふみし夏の宮

倉敷ハイツ 前田英雄

○さ、ゆりが可憐な匂いで人を呼ぶ

募集要項

- ◆ハガキまたは便箋一枚に五句まで、ハガキ・便箋二枚まで
- ◆次号への投句は六月末日締切
- ◆掲載者には記念品を贈呈
- ◆選者は駕龍寺山主
- ◆俳句のほか短歌や詩文などの投稿も大歓迎です

お知らせ

この度、駕龍寺のホームページをリニューアルいたしました。
年間行事のお知らせ、住職のつぶやき、コラムなど盛りだくさんのコンテンツで駕龍寺のことをもっと知ることが出来ます。
また、フェイスブックも始めました。こちらでも様々な情報を発信していきたいと思っております。
皆さんぜひアクセスしてみてください。



年中行事

平成二十八年 年忌繰出表

法事は御命日に、もしくは御命日に遅れないように計画致しましょう

●修正会 一月一日午前零時

●節分会 二月三日午後三時

●弘法大師正御影供 春季彼岸会・永代経供養 三月十七日午前十時

●孟蘭盆大施餓鬼会 八月一七日午前十時

●秋季彼岸会・永代経供養 九月一七日午前十時

●帯江三十三観音霊場本尊 酒樽観音大祭大般若転読法要 十一月二十日(日)午前十時

●除夜会 十二月三十一日午後十二時四十五分

●鎮守講 毎月一日午前十時

●観音講 毎月十七日午前十時 法話、おとき差し上げます。

●大師講 毎月二十一日午前十時

●奉仕の日(境内清掃) 概ね毎月二十八日午前中

※御供養・御祈祷随時受付(要予約) ※いずれの行事にもお誘いあわせ、お気軽に御参詣ください。

投稿募集

皆様の疑問質問にお答えします お便りをお寄せください

福寿海では読者の皆様からの投稿を募集しています。皆様の宗教体験は日常生活で感じたことなどをお寄せください。また「お答えします」のコーナーでは、皆様から寄せられた疑問質問に、住職はじめその道のプロが回答させていただきます。どんな些細な内容でも結構ですので、いろんなご質問をお待ちしています。

命日の当日に法事が出来なければ、なるべくそれよりも前に日に行うべきだというしきたりは、「人間はいい加減なものなので、いつでもいいとなると、どんどんおろそかになっていくから、当日にできなかつたり、土曜や日曜に執り行いたい場合は、命日より前にしなさい」と、昔の人は教えてくれています。命日を過ぎてから法事をしたら良くないとか、祟りがあるといういみではありません。

だから命日を過ぎていたとしても、法をしないでおくよりは、遅れてでもした方が供養になるのは確かですから、是非行つてあげてください。

一周忌	平成二十七年	逝去
三回忌	同	二十六年
七回忌	同	二十二年
十三回忌	同	十六年
十七回忌	同	十二年
二十三回忌	同	六年
二十五回忌	同	四年
二十七回忌	同	二年
三十三回忌	昭和	五十九年
三十七回忌	同	五十五年
五十回忌	同	四十二年
七十回忌	同	二十二年
百回忌	大正	六年

宛先

郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、職業を明記の上、左記までお送りください。

〒七一〇〇〇四二 岡山県倉敷市二日市六〇〇 高野山真言宗 駕龍寺「福寿海」係

●Eメールの場合は info@karyuji.jp まで ※採用させていただいた方には駕龍寺より粗品を進呈させていただきます。

慧燈星懸

あけましておめでとうございます、本年も駕龍寺共々「福寿海」をよろしく願っています
▼今号は第十号の節目の号となり、併せて高野山開創1200年記念号という超特大の内容となりました▼昨年は一年を通して高野山開創記念イヤーと位置付けられ、テレビや雑誌などでたびたび高野山が取り上げられてその余録もあつてか駕龍寺主催の旅行や年中行事の事を知らなかつた人々に対しても知名度が上がったのでないかと。五月の高野山団参と秋の特別伝道大会には五十余名、中でも酒樽観音大祭には約百五十名と、いずれの行事にもこれまでで最も多数の参加者があつた▼寺院にとつて、主催の行事に檀信徒はじめて多くの方にお詣り頂くことが何より法幸である▼御参詣の皆様とご協力いただいた皆様には甚深の謝意を申し上げます▼特に今年は年中行事のみならず、個人的な祈願である交通安全や安産祈願、無事出産しての初参りなど人生儀礼に關わる御祈禱の申し込みに多くあつた▼人の誕生(或いは求子祈願)から死に至るまでの儀礼のうち寺院は葬儀以降にしか用事がないように思われがちであるが、実は真言宗僧侶は人生儀礼はもとより、地鎮祭をはじめ棟上げや家払いなど神職の方が携わられる儀式作法一切の伝授を受けている▼家庭に祭祀行事が必要になったときは先ずは菩提寺にご相談ください▼十年一昔とはよく言ったもので、迂柄の倉敷での歩みも十年目に入る▼この十年の間様々な場面でも檀信徒の方々や有縁のお方に仏前勤行次第(おかんき)を唱えさせた▼経本に書かれてある経文や真言は信心を象徴する言葉である▼仏が我々を信じているから仏の心は我々に通じる▼真言は我々が仏に祈る言葉であると同時に、仏が我々を信じ必ず救うぞという、仏の祈りの言葉でもある▼外に在る仏というより、我らの信心の根源に流れている廣大無辺な、清浄な虚空の如き純粹な心である▼信心の内容が仏心、仏法である▼我々僧侶が在家の方々を下げるとき、その方個人への敬意は勿論であるが、実はその方の心中奥深くにある仏心にも礼拝をしているのである▼お大師様の説かれる相互供養、相互礼拝の実践である▼人は誰でも仏の心を持つている。その事に気付いた人は寺院の空間が心地よい(自身は仏だ)と思えるからお寺に足が向くのだらう▼昨年は自身の仏心に気が付いた方が沢山おられたようだ▼この仏性の目覚めが開創法会イヤーの盛り上がり▼今年も皆様に楽しく喜んでいただくお寺を目指します▼ので、ぜひ皆様の信仰心溢れるお付き合いをお願いいたします